

ウランバートル市における障害者の社会参加促進プロジェクト（JICA/DPUB）

ニュースレター第26号 2019.04



障害勉強会が行われた

(2019.04.02)

聴覚障害者がどのように運動を進めてきたのか、世界ろう連盟や日本ろうあ連盟の取組の歴史を勉強すべく、2019年の第三回障害勉強会を3月27日に実施しました。今回は聴覚障害者の方を中心に70名以上の参加者があり、大盛況となりました。聴覚障害者にとって、手話と手話通訳の重要性。教育や情報にアクセスする権利など、聴覚障害者がどのように権利を獲得してきたのか、その歴史を振り返りました。同時に、モンゴルではどの程度、聴覚障害者の権利が保障されているのか、参加者と意見交換をしました。勉強会を通して感じたことは、聴覚障害者に対する教育へのアクセス権が十分に保障されていないこと。手話での教育やバイリンガル教育、生徒への情報伝達が不十分なため、普通校と同等の教育を受ける権利が保障されていないと思います。今後も聴覚障害者団体との意見交換が必要と感じられた勉強会でした。教育と情報アクセス改善に向け、DPUBは今後も活動を続けて行きたいと思っています。



熱心に発言する参加者

熱心に発言する参加者

タイ・スタディーツアー報告会を実施 (2019.04.01)



スタディーツアー参加の皆さん

モンゴル障害者団体全体の協力を促進するため、タイ・スタディーツアー報告が3月4日に開催されました。タイでは、障害種別や団体が異なっても「共通の利益」を見つけることで障害者団体の連携を促進し、政策提言を行い、障害者福祉政策を進めて来た歴史があります。モンゴルでも団体同士の協力は可能なはずです！モンゴルの障害者団体はバラバラ、一度団結したが失敗した、リーダーがいない、自分の利益だけを要求する人が多いなど、多くの課題が参加者から指摘されました。一方で、障害者団体で団結して政策協議に臨むべき、障害種別を越えて連携すべき、障害者団体の組織力を強化すべき、など連携や団結に前向きな意見も多く出されました。どの国でも障害者団体の団結は難しいのですが、団結や連携が進んでいる国では、障害者団体と政府の協力も進んでいると思います。DPUBでは今後も障害者団体の協力体制の構築、また障害者団体と行政機関の連携促進に取り組んで行きたいと思っています。

「すべての利用者に優しい施設を目指して」モンゴル日本人材開発センター (2019.04.11)



モンゴルのビジネス人材の育成や、日本との交流の懸け橋を担うモンゴル日本人材開発センター。研修やイベント、図書室の利用者でいつもにぎわっています。17年前に開所したこの施設は、入り口にスロープがあり、車椅子利用者が使いやすいユニバーサルデザインのお手洗いを設置するなど、早くから「アクセシビリティ」に取り組んでいます。「年々来館者が増えるにつれ、多様なコンディションの方がいらっしゃるようになりました。建物だけでなく、スタッフが提供するサービスも改善したいです。」と図書室担当のスタッフ。職員を対象に障害に関する研修を行うことになりました。研修は2回に分けて実施。最初に障害理解のための「障害平等研修 (DET)」を行い、次に障害のある人に対する介助方法の研修を行いました。参加した職員は、「障害に対する考え方が変わりました。研修方法も座学ではなく演習中心で楽しい！」とコメント。障害のある人達が進行役をしていたことも刺激になっていたようでした。モンゴル人スタッフが率先して企画した今回の研修。参加者の熱心さに、研修を担当したファシリテーター達も手ごたえを感じていました。

物理アクセシビリティ改善セミナー2

(2019.04.01)

3月12日、日本から佐藤克志先生にお越し頂き「物理アクセシビリティ改善セミナー2」を実施しました。

モンゴルにはなぜ急なスロープが多いのか？

原因の一つは、設計の段階でアクセシビリティへの配慮がスロープしかなかったから。障害者用のトイレや段差の解消、駐車場、高いビルにはエレベーターなどの配慮が、設計の段階でされていないので、当然、完成してもバリアフリーにはなりません。そのため、設計図の段階でアクセシビリティにするための許認可制度、制度構築のための法律と基準を日本から学ぶため、今回のセミナーが開催されました。参加者は100名以上。行政官はもちろん、多くの障害者の方にも参加頂きました。許認可制度に問題があることは分かったが、バリアフリーはもう何年も進んでいない、行政機関はしっかりと法律を履行して欲しいなど、障害者団体から多くの不満も出されました。モンゴルを、障害者にも、高齢者にも、妊婦さんや重い荷物を持つ人などすべての人に使いやすくするにはまだ時間がかかりそうです。しかし今回のセミナーで原因と対策は明確になりました。DPUBは、建設都市計画省、道路運輸開発省とも協力し、設計図の段階でアクセシブルにすることに今後も取り組んでいきます。



佐藤克志先生



パネルディスカッションの様子

JICA DPUBのFACEBOOKページに

「いいね」をお願いします。



おかげさまで、今ではページの「いいね」が4682件に達し、より多くの方に情報を発信できるようになりました。これからも、楽しんでいただけるような投稿を目指して頑張ります。引き続き、宜しくお願い致します。

JICA専門家としての新たな挑戦



千葉チーフアドバイザー

2002年7月、初めてJICA専門家になりました。赴任先はバンコクにある「アジア太平洋障害者センター（通称、APCD）」です。APCDは、国連「アジア太平洋障害者の10年」の実施を継続する機関として設立されました。主な活動は3つ、1) アジア太平洋地域の政府・NGOとのネットワークの構築、2) 人材育成と研修、3) 障害情報センターと情報アクセシビリティでした。JICAから専門家が4名赴任し、私もその1人となりました。ただこの時、私はまだ障害にも国際協力にも経験不足で、仕事を通して専門性を身につけなければ、と緊張感を持って活動に取り組んだのを覚えています。私が担当したのは障害情報センター、情報アクセシビリティ、情報研修でした。ただ最初は、活動内容が明確に決まっておらず、まずはアジア太平洋地域で障害者がコンピューターなどの情報通信機器をどの程度使っているか、調査することから始めました。当時、インターネットなどの通信インフラがようやく途上国にも浸透し、障害者も情報技術を使い始めた時代だったのです。

DPUB連絡先

Office: Government Building – 2, United Nation’s Street – 5, Ministry of Labor and Social Protection Ulaanbaatar – 15160, Mongolia

Facebook: <https://www.facebook.com/jicadpub>

Website: <https://www.jica.go.jp/project/mongolia/015/index.html>

E-mail: dpub.jica@gmail.com